

トラック2(おまけパート・途中で射精してしまったときに聴く用)

(冷たい感じで)

ねえ、私許可してないわよ。

何勝手に射精してるのかしら。

みんなに言いふらしていいってことよね。

ああ、それが目当てだったの？

あなたドMだものね。

クラスみんなに笑われる、屈辱的な日々を送りたかったのね？

(→→→まで)

じゃ、望み通りにしてあげ…、

…何よ、急に叫んで。

やめてって…そんなこと言える立場？

みんなにバレるの、そんなに嫌なの？

はあ…仕方ないわね。

最後のチャンスをあげるわ。

慈悲深いあたしに感謝して、よく聞きなさい。

あなたがぶちまけたきつたない精液、手ですくって、

自分のおまんこに塗り込みなさい。

指突っ込んで、奥まで塗り込むの。

どの道、このままにして帰れないでしょう？

あなたが出したんだから、責任もって、

あなたの体内に収納しなさい。

(心底可笑しそうに)

…あはっ、あははっ。

ほんとに、ほんとに、してる…っ。

おまんこに、自分のザーメン…っ。

ねえ、あなた知ってる？

精液って、赤ちゃんのもとなのよ？

そんなのおまんこに、あははっ、入れちゃって…、

妊娠しちゃってもしらないわよ？

自分の精子と卵子で妊娠とか…、

何？ クローンでも作るつもりなの？

変態を増やしてどうするのよ？

あはっ、はははっ…。

(→…まで)

あー、苦しい。

笑わせてくれたことに免じて、

あなたのことは黙っといてあげるわ。

でもあなたはこれから、私のおもちゃよ。

毎日放課後ここに来なさい。

私を笑わせ続けている間は、みんなに内緒にしないとあげる。

分かった？

どんなみつともない姿を見せたら私が喜ぶか、

毎日考えながら過ぐすのよ？

あはっ、あははははっ！